

**編集後記：**「編集後記」の担当は、編集委員の任期である二年に一度巡ってくる。私は事務局に属しているけれども、編集書記の補助としての記事校正が主な役わりである。事務局は5名いて、各号を交代で担当しているが、今回、自分の文章を校正する機会が巡ってきた。校正といっても、内容や文章構成ではなく、おもに数式や横文字などの整形に重点がある。このため、単純作業になりがちではあるが、図表位置の調整での行送り指示などで、編集書記の技術に感心することも多い。その他、校正担当号の編集会議の司会も行う。編集会議では、新着論文の担当者決定や査読原稿ごとの進捗共有などを委員が行っている。参加にはわざわざ大手町へ足を運ぶ他、ウェブ経由も可能である。いつもは数時間で会議が終わるため、事務局固有の役わりは、先に述べた校正が主である。1月号を校正する実時間は年末から正月明けで、ややタイトとなる。

ここまで、編集委員の役割の一部を紹介しましたが、事務局以外にも様々な仕事があります。来期（今年6月～）が近いので、興味を持たれた方は近くの編集委員に声をかけて下さい。編集会議は委員会の基本的な枠組みですが、昨年12月には両指が余る程度など、出席率が低迷気味です。楽観的に捉えれば、インシアチブを發揮しやすい状況です。文章を読み書きする機会は多くとも、原稿から出版までの過程に関わる機会はそれほど多くありません。この稿が参画の契機となれば幸いです。

最後に、左段の行頭をもって挨拶とします。一行の文字数が少なくやや不自然になりましたが、自分で校正するため崩れることはないと思います。たったこれだけの制限でもかなり疲れましたが、たまには普段と異なる頭の回路を働かせるのも良いものです。

（蟻坂隼史）